

| 平成29年度 山陽小野田市地方創生協議会 会議録 |  |
|--------------------------|--|
| 開催日時                     | 平成29年10月11日(水) 19時00分～21時10分   |
| 開催場所                     | 山陽小野田市役所 3階 第2委員会室   |
| 出席委員                     | 山陽小野田市地方創生協議会委員 10人<br>(江田座長、原副座長、半矢委員、山根委員、中村委員、白井委員、森田委員、野村委員、小原委員、竹本委員)   |
| 出席職員                     | (事務局)<br>総合政策部長、企画課長、企画課課長補佐、企画課主査、企画課主査兼企画係長、企画課行革推進係長、企画課主任、企画課主事(事業担当課)<br>農林水産課農林係長、農林水産課主事、商工労働課商工労働係長、観光課観光振興係長、大学推進室副室長、こども福祉課長、こども福祉課課長補佐、こども福祉課主査兼子育て支援係長、健康増進課子育て世代包括支援センター主任、文化・スポーツ政策室主幹   |
| 協議概要                     | <p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付<br/>人事異動などによる委員の交代があったため、新たに山根委員、白井委員へ委嘱状を交付。</p> <p>3 議題<br/>(1) 青年就農給付金事業<br/>(2) 新規農業就業者定着促進事業<br/>【農林水産課農林係長が事業内容を説明】</p> <p>○主な質疑応答<br/>【山根委員】<br/>平成29年度も同じ対象者で行うのか。<br/>【農林水産課農林係長】<br/>事業の内容としては同じである。<br/>【山根委員】<br/>対象となるのは任意団体か。</p> |

**【農林水産課農林係長】**

任意団体かどうかは問わない。条件を満たせば対象となる。

**【山根委員】**

厚狭地区にも対象にしてほしい農家がある。また相談したい。

○事業の評価

**【座長】**

（青年就農給付金事業及び新規農業就業者定着促進事業が総合戦略のK P I達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）

挙手多数と認められるため、青年就農給付金事業及び新規農業就業者定着促進事業は総合戦略のK P I達成に有効であったと評価する。

**(3) 転入奨励金交付事業**

**【企画課課長補佐が事業内容を説明】**

○主な質疑応答

**【中村委員】**

近隣の市町でも同じような事業を実施しているところがあるのか。

**【企画課課長補佐】**

当時は先進的であったが、お隣では宇部市が類似する事業を実施されている。

○事業の評価

**【座長】**

（転入奨励金交付事業が総合戦略のK P I達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）

挙手多数と認められるため、転入奨励金交付事業は総合戦略のK P I達成に有効であったと評価する。

**(4) 子育て女性等就職応援事業**

**【商工労働課商工労働係長が事業内容を説明】**

## ○主な質疑応答

### 【半矢委員】

受講された方の中で、2名ほど欠席の多い方がいるが、子育てが理由になっているかと思う。託児等を考えなかったのか。

### 【商工労働課商工労働係長】

託児所を設けている。

### 【半矢委員】

託児所が利用できることをしっかりPRしながらの講座となれば、もっと参加者も増えるのではないかと思う。

### 【原委員】

就職を希望したいというときに、どういう範囲で広報しているのか。就職したい意思はあるが、勤務条件などの問題から短期でやめてしまうということも聞く。周知ができていないという問題もあるのではないか。

### 【商工労働課商工労働係長】

事前説明会や、チラシ配布を行っている。事前説明会に参加した方の多くが申込みをするという傾向もつかんでいるため、今後の取組でも重要視したい。

### 【森田委員】

1人受講され、2人は就職を希望されず、もう2人は就職に至らなかった。この就職に至らなかった2人についての就労支援は行ったのか。

### 【商工労働課商工労働係長】

希望の職種に対して、情報提供はさせてもらった。働きたい時間帯とのマッチングもうまくいかず、現在のところ未就労となっている。

## ○事業の評価

### 【座長】

(子育て女性等就職応援事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、子育て女性等就職応援事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

### (5) 観光案内版設置事業

### 【観光課観光振興係長が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【野村委員】

県内の中で、山陽小野田市はどのくらいの成果を出しているのか。

【観光課観光振興係長】

県内全体だとJRと組んだデスティネーションキャンペーンを行っている。その中では山陽小野田市の伸び率は悪い。

【野村委員】

伸び率が悪いということで、何か対策を行わなければならないと考える。

【観光課観光振興係長】

お客様へのおもてなし度は上がったため、今後の数字が大事だと考えている。

○事業の評価

【座長】

(観光案内版設置事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、観光案内版設置事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

(6) ハッピースポット設置事業

【観光課観光振興係長が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【小原委員】

きららビーチの観光客数だけでの評価は難しいかと思うが、ほかの場所で同じようなことをすることも考えて、費用対効果の分析も必要である。

【観光課観光振興係長】

マーケティングのリサーチは重要であると考えているが、リサーチの委託など費用もかかる。これからDMOの動きもある中で、分析は大切だと考えているので検討したい。

【森田委員】

SNSを活用するなど、いい傾向だと思う。例えば伝説をつく

るなどの仕掛けをする、又はイベントをすることでもう一段階効果を上げることができると思う。

【半矢委員】

運用時間について、どういう検討をされてこの時間となったのか。夕陽がメインの場所でもあるため、もう少し時間を延ばしてみてもどうか。ロマンチックな雰囲気を楽しむためにも、もう少し時間を考慮してみてもどうか。

【観光課観光振興係長】

夕陽をバックに鐘を鳴らすというシーンは理想であるが、季節的なものもあり、運用時間は管理事務所とも話をした。管理をしていくのに大変であるとの事情もあり、一年を通してこの時間となっている。夕陽のきれいな間に鐘が鳴らせない時期があるのは少し寂しいことではあるが、ぜひ夕陽をバックに鐘の写真を収めるなどして楽しんでもらいたい。

【山根委員】

実績額は管理費用か、設置費用か。

【観光課観光振興係長】

工事にかかる費用であったため、設置費用である。

【山根委員】

来年からはこの費用はかからないということによいか。

【観光課観光振興係長】

来年は設置費用はかからず、現在も管理費用はかかっていない。

#### ○事業の評価

【座長】

(ハッピースポット設置事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、ハッピースポット設置事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

#### (7) 国際観光推進事業

【観光課観光振興係長が事業内容を説明】

## ○主な質疑応答

### 【野村委員】

K P Iについて確認だが、各事業におけるK P Iは目標値1,000人に対し、平成31年には2,000人となっているが、このあたりの見方を説明してほしい。

### 【観光課観光振興係長】

韓国人観光客におけるゴルフ場の利用を見込んで、平成31年には2,000人と多く見込んでいる。

### 【事務局】

総合戦略におけるK P Iは、平成31年度の目標を設定している。一方で、毎年度の進捗を見通す中で、事業ごとに単年度のK P Iも設定しており、この事業においては平成28年度の目標値として1,000人という数字を設定している。

### 【中村委員】

この1,327人というのは少ない気がするが、どうやって数えたのか。

### 【観光課観光振興係長】

県が観光動態調査をしており、各観光施設について各国の観光客数を調査した数字である。

### 【小原委員】

観光客の人数よりも、市にどれだけの経済効果があったかが最終的には重要である。視察の受入れをしている事業者の中で、こういう国の方を募集したいなどの希望というのは出てくるのか。

### 【観光課観光振興係長】

視察先以外の事業者から受入れの希望は何社かあるが、インバウンドに向けて取り組もうという声はあまり聞かない。各国の志向があるので、そことのマッチングがうまくいけば受入れの事業者も出てくるのではないかと考えている。

## ○事業の評価

### 【座長】

(国際観光推進事業が総合戦略のK P I達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、国際観光推進事業は総合戦略のK P I達成に有効であったと評価する。

**(8) 公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学整備及び活用事業**

※薬学部の開設に向けた校舎の建設をする事業であり、この事業自体は直接にはKPIに結びつかないため、評価は行わず担当課から事業説明のみ行った。

**【大学推進室副室長が事業内容を説明】**

○主な質疑応答

**【事務局】**

評価シート中、「地域再生計画分」という表示がある。これは、いわゆる企業版ふるさと納税の制度を利用して税制の優遇措置を受けるために、市で地域再生計画を策定した際に設定したKPIの数値である。内閣府の認可を得た上で税制優遇が受けられる制度であるが、認可を得た事業としては(8)公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学整備及び活用事業と、後ほど御説明させていただく(9)山陽小野田市子育て総合支援センター整備・運営事業の二つであるので、補足説明をさせていただく。

また、地域再生計画におけるKPIとして、「22人」と記載しているが、内閣府に提出した地域再生計画自体が平成30年度までの計画になっているため、この「22人」というのは平成29年度末での目標値である。委員の皆様には、来年度にこの数値について評価していただきたい。

**【中村委員】**

総事業費のうち、何割くらいを交付税や地域再生計画分で入ってくると見込んでいるのか。

**【総合政策部長】**

概算であるが、合併特例債を16億3,000万円程度活用する。交付税はそのうち7割程度であるため、11億円から12億円程度、山口県の無利子貸付けが6億8,000万円程度であると考えている。交付税措置や特定財源としては1割程度であり、あとは一般財源である。ただ、学生が入ってくることにより、運営費に対しての交付税が別立てで入ってくるため、このうち1割から3割程度を起債の償還に当てようと考えている。地域再生計

画分は、平成29年度になる。

**【小原委員】**

市内就職率について、市内の就職先が少ないのか、それとも希望者が少ないのか、分析をしているか。

**【大学推進室副室長】**

そこまで把握をしていない。高校生で大体100名の方が就職を希望され、残りの方が大学進学を希望されるということである。山口東京理科大学の場合は、就職率ほぼ100パーセントである。大学でも市内の企業との連携や、インターンシップに力を入れていただいているため、今後は市内の企業に就職する若者が増えればよいと考えている。

**(9) 山陽小野田市子育て総合支援センター整備・運営事業**

**【こども福祉課課長補佐が事業内容について説明】**

※支援センターの開設に向けた建物の整備であり、この事業自体は直接にはKPIに結びつかないため、評価は行わず担当課から事業説明のみ行った。

○主な質疑応答

(なし)

**(10) 子ども医療費助成拡充事業**

**【こども福祉課主査兼子育て支援係長が事業内容について説明】**

○主な質疑応答

**【森田委員】**

各事業におけるKPIでは平成28年度1,727人、総合戦略におけるKPIの平成28年度実績は2,725人となっているが、この差異を説明してほしい。

**【こども福祉課主査兼子育て支援係長】**

平成28年度に制度を拡充した結果、助成を受けた小学4年生から中学3年生までの児童・生徒数が1,727人であり、助成を受けた小学1年生から中学3年生までの全体の児童・生徒数が2,725人である。

○事業の評価

**【座長】**

（子ども医療費助成拡充事業が総合戦略のK P I 達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）

挙手多数と認められるため、子ども医療費助成拡充事業は総合戦略のK P I 達成に有効であったと評価する。

**(11) 乳幼児医療費助成拡充事業**

**【こども福祉課主査兼子育て支援係長が事業内容について説明】**

○主な質疑応答

（なし）

○事業の評価

**【座長】**

（乳幼児医療費助成拡充事業が総合戦略のK P I 達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）

挙手多数と認められるため、乳幼児医療費助成拡充事業は総合戦略のK P I 達成に有効であったと評価する。

**(12) 子育てコンシェルジュ事業**

**【こども福祉課課長が事業内容について説明】**

○主な質疑応答

**【野村委員】**

総合戦略におけるK P I で、平成28年度の実績が減っているがどう考えるか。

**【こども福祉課長】**

コンシェルジュが出向く地域子育て支援センターが5か所あるが、その利用者の合計である。平成27年度までは毎年増えていたが、平成28年度は若干減っている。年度によって多少増減がある。平成28年度については、幼稚園での園庭開放など、他の事業が重なって利用者が分散したかと分析しているが、特に大きな原因はない。

**【野村委員】**

年度ごとでアップダウンがあるにしても、最終目標に向けて何か対策をしないといけないと考える。

**【森田委員】**

各事業におけるKPIと、総合戦略におけるKPI、我々はどちらを見て評価すればよいのか。

**【事務局】**

総合戦略におけるKPIについて評価をしていただきたい。平成28年度における各事業のKPIは、平成31年の目標達成に向けて庁内の中で指標を定めているが、こちらはあくまでも進捗を把握するためのものと捉えていただきたい。

**【森田委員】**

庁内における担当部署自己評価はどちらのKPIの評価か。

**【事務局】**

総合戦略におけるKPIである。

**【小原委員】**

理由がないとか分析していない、と言われているが、目標達成には分析が必要だと思うがどうか。

**【こども福祉課長】**

これと言った原因がない、というのが分析結果ではある。あまりたくさんの方が来られたから有効、というわけではなく、相談を受けることができる件数も限られている。回数については増やしていきたいと考えている。

**○事業の評価**

**【座長】**

(子育てコンシェルジュ事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、子育てコンシェルジュ事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

**(13) 子育て世代包括支援センター事業**

**【健康増進課子育て世代包括支援センター主任が事業内容について説明】**

○主な質疑応答

【山根委員】

各事業におけるKPIの「2件」というのは多いのか、少ないのか。

【健康増進課子育て世代包括支援センター主任】

生活保護やシングルマザーや実家からの支援が受けられないようなハイリスクがある方の絶対数からみると少ないと考えている。

【中村委員】

厚狭地区複合施設内で相談受付を行っているが、実績としては厚狭地区の妊産婦さんが多いのか。

【健康増進課子育て世代包括支援センター主任】

市内全体の妊産婦の実績になる。妊娠届の際に実情把握として受けることが多い。ココシエ83件、小野田保健センターで400件ということで、小野田保健センターは市民病院に隣接しているため、こちらでの件数が多くなっている。

【山根委員】

事業としてはココシエ83件、小野田保健センターでは400件を受け付けた、というのが内容ということでよいか。

【健康増進課子育て世代包括支援センター主任】

一人一人に支援台帳を作成しており、検診や相談結果などを記録し、実情の把握として数字を挙げている。

【山根委員】

その支援プランを作成したのが2件ということでよいか。

【健康増進課子育て世代包括支援センター主任】

そのとおりである。

【野村委員】

合計特殊出生率の目標値に向けた効果を説明してもらいたい。

【健康増進課子育て世代包括支援センター主任】

高齢での45歳以上の妊娠届もあり、また、第4子、第5子の妊娠届も増えている。子育てしやすいまちづくりを基盤にしてやっていきたい。出産して育てていくところにつながっていけばと考えている。

## ○事業の評価

### 【座長】

(子育て世代包括支援センター事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、子育て世代包括支援センター事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

## (14) 婚活支援事業

### 【企画課課長補佐が事業内容について説明】

## ○主な質疑応答

### 【森田委員】

もう少し現実的なKPIを設定したほうがよかったのではないか。一つの施策だけで、婚姻率や合計特殊出生率が上がるものではなく、もっといろいろな要因が絡むものである。もっと現実的で有効なKPIをこれからは選択してもらいたい。

### 【中村委員】

(13)と(14)のKPIの指標が高すぎる。一つや二つの要因だけではなく、いろんな施策を組み合わせた結果が成果として出てくると考える。

### 【企画課課長補佐】

御指摘のとおり、御意見を参考にさせていただきながら今後はKPIを設定したい。

### 【中村委員】

市内の参加者は4割。6割はどこから来たのか。

### 【企画課課長補佐】

周辺市である。人数の確保という面で、広域で周知を図っている。どうしても、地元だと顔が知れていて参加しづらいという市外の方の声も聞く。男女のうち、どちらかが市外の方であっても、お住まいはぜひ山陽小野田市へということで、PRする時間も設けている。転入促進にもつながればと考えている。

### 【小原委員】

募集は市で行うのか。

【企画課課長補佐】

委託先からフリーペーパー等で広報するほか、市の方でもホームページや市の広報へ掲載するなどしている。

【小原委員】

委託先自体の選定がよかったのかどうかも分析する必要があると考える。

【野村委員】

イベント参加者の目標が200人であり、これを条件に委託したと思う。結果として140人ということで、うまくいっていないような気もするが市としてはこれでよいのか。

【企画課課長補佐】

目標値の200人に及ばない140人となったが、事業の運営や開催時期、手法を工夫しながら考えていきたい。

○事業の評価

【座長】

(婚活支援事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、婚活支援事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

(15) レノファ山口とのパートナーシップ事業

【文化・スポーツ政策室主幹が事業内容について説明】

○主な質疑応答

【中村委員】

策定時の現状から、平成28年度の実績はかなり利用者数が減少しているがなぜか。

【文化・スポーツ政策室主幹】

集計方法が変わった。

【中村委員】

最終目標の14万人はどうやって達成するのか。

【文化・スポーツ政策室主幹】

実人数を増やす。週に5日ほどレノファが練習をしているので、利用が見込めると考えている。

【竹本委員】

練習しに来た人や見学に来た人を数えるのか。

【文化・スポーツ政策室主幹】

散歩や見学に来た人は入っておらず、あくまでも施設を利用した方を数えている。

【野村委員】

K P I の数値のカウントの仕方を変えたということで、評価が難しい。できれば作成時の数値を基に調整をしてもらえればと思う。

#### ○事業の評価

【座長】

（レノファ山口とのパートナーシップ事業が総合戦略の K P I 達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）

挙手多数と認められるため、レノファ山口とのパートナーシップ事業は総合戦略の K P I 達成に有効であったと評価する。

#### (16) パラサイクリング連盟とのパートナーシップ事業

【文化・スポーツ政策室主幹が事業内容について説明】

#### ○主な質疑応答

【中村委員】

最終的な K P I は観光客数の増加か。

【文化・スポーツ政策室主幹】

市内を訪れる観光客数の増加が最終的な目標である。

【中村委員】

観光客数という設定には少し違和感があるが、頑張っていたきたい。

【野村委員】

交流事業の実施回数はどういうカウントになっているのか。

【文化・スポーツ政策室主幹】

合宿は参加者がなく交流事業ではないため、カウントしていない。

○事業の評価

**【座長】**

（パラサイクリング連盟とのパートナーシップ事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）  
挙手多数と認められるため、パラサイクリング連盟とのパートナーシップ事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

4 その他

**【原委員】**

地方創生ということで、子育てなどに重点を置いているが、これからの未来を考えたときに、リタイアした後や介護については施策がない。医療や介護についても手を入れていただきたい。

また、他市よりも山陽小野田市は介護認定の評価が厳しくて認定が受けづらいという噂を聞く。

**【総合政策部長】**

介護保険事業は国の方針に基づいて行っており、市独自の施策を加えることが難しく、また、特別会計で実施する事業であるため、地方創生の事業に含みづらいと考えている。

また、介護認定は、国が定めた基準に従い、医師等の専門家による介護認定審査会の審査を経て決定されるものであり、今言われた噂にあるようなことは考えにくい。担当部署へも伝えるが、今後は誤解が生じないように事務を推進していきたい。

**【小原委員】**

婚活支援事業の業務委託について、結果をもっと厳しく求めてもいいのではないか。

**【企画課課長補佐】**

婚活については、公募型のプロポーザルを実施して事業者を評価して決定しており、来年度もそれに基づき決定していきたい。

**【森田委員】**

総合戦略のように大きな計画のKPIは、個別の事業に割り振ることが大事である。事業のKPIについては、選び方、定義、目標値の根拠が大切である。こうしたことを押さえていく必要がある。

|  |                                |
|--|--------------------------------|
|  | <b>【事務局から事務連絡】</b><br><br>5 閉会 |
|--|--------------------------------|